



**XFILE3**

**リリースノート バージョン 6.3.1**

(2022年 6月)

**Photron**

## 警告

- > 6.2バージョン以降、Xfile3インストーラーは1つではなく、3つのファイルで構成されています。  
.exeファイルを実行してXfile3インストールを開始する前に、3つのファイルすべてを同じローカルフォルダーにコピーする必要があります。
- > 6.0バージョン以降、Xfile3はライセンス管理のために新しいVIAライセンスシステムに統合されています。  
XFile3 6.2以降を実行および操作するには、新しいXFile3およびXTAccessの有効なライセンスが必要です。  
新しいライセンスを入手するには、EVSサポートに連絡してください。  
XViewer (XFile3に統合されている)ライセンスのみは、XSecureを使用し続けています。
- > C-Next Contribution Workflow Integrationは、いくつかの制限がありますが利用できます。

# 新しい機能

## バージョン 6.3

- > Multicam 20.3互換

## バージョン 6.2

- > Multicam 20.2互換
- > VIAメタデータ(BEMデータモデル)の統合: LSM-VIAワークフローのBEMデータモデル統合
- > MediaManagerタブで複数のファイルを削除可能
- > MediaManagerタブでファイルを移動するための新しいオプション
- > プレイリストをレンダリングするときに既存のswapオーディオトラックのをサポート
- > XFile3でのVIAライセンスUIの統合
- > XFile3でのMediagridネットワークドライブの統合

## バージョン 6.1

- > Multicam 16.6 と Multicam 20.1互換
- > AutoRestore と Restore タブから、XSQ Encoder プロファイルへのアクセス
- > SLSMメディアアーカイブ時のオーディオ含むSLSM情報の保持
- > Aux trackのサポート: プレイリストのレンダリング時
- > XFile3インターフェースからのユーザマニュアルHTMLページのアクセス (PDFファイルの置き換え)
- > XT Servers最大34 XTサーバーのサポート

## バージョン 6.0

- > Multicam 16.5 と Multicam 20.0互換
- > ライセンス管理用のVIAライセンスの統合
- > 同じVLAN内にXTサーバーがいなくてもXFile3への接続/操作可能
- > プレイリストのアーカイブ時に、Playlist EDLがより詳細な情報を保持

# バグ修正

## バージョン 6.3

- > jumbo frame接続がない場合、適切なUIユーザー表示がなかった問題を修正。
- > [Streaming] XFile3は、宛先が2つある6 CAMストリーミングが進行中で、ユーザーが2番目のストリーミングタブを開いて一部のカメラをストリーミングしたときに例外を表示することがあった問題を修正。
- > EVSLogsフォルダ内のNotificationCenterには、ディレクトリまたはログファイルが含まれていなかった問題を修正。
- > 状況によっては、特に XFile3 が数日間実行されている場合、UIにリンクされたメモリリークが発生し、アプリケーションがフリーズする可能性があった問題を修正。

## バージョン 6.2.3

- > アプリケーションがすでに起動されて実行されている場合、XFile3はUSBドライブのインデックスを作成していなかった問題を修正。

## バージョン 6.2

- > [Streaming] 複数のタブと異なる宛先でストリーミングを実行すると、ファイルが誤った場所に保存された問題を修正
- > [Streaming] 進行中のストリームを停止すると、“frame cannot be superior to 29”という警告ポップアップメッセージが表示されることがあった問題を修正。
- > MediagridネットワークドライブがXFile3Windows10バージョンで認識されない問題を修正。
- > XFile3で、XSquareモニタリングが自動的に開始されない問題を修正。
- > XTサーバー入力をEmber+で切り替えると、XTサーバーがXFile3から消えた問題を修正。
- > 手動で追加したXTサーバーに到達できない場合、XFile3は例外を表示した問題を修正。
- > プレイリストをレンダリングするときに、プレイリストのオーディオスワップポイントが保持されない問題を修正。

## バージョン 6.1

- > ドライブ取り外し後のアプリケーションクラッシュの問題を修正。
- > [Streaming] HiRes & LoResを持つXSquare template使用时、XT-VIAからのストリームバックアップが失敗する問題を修正。
- > 一度に、ポップアップ“Failed to compare two elements in the array”が複数回現れる問題を修正。
- > [Media Manager] XSquare テンプレート設定から独立して、SLSMクリップが常に“all frame”だった問題を修正。
- > テンプレートがXFile3から見えなくなる: AutoArchiveルールの停止のためにロードされたテンプレートの更新の例外の問題を修正。

# 既知のバグと制限事項

## 既知のバグ

### バージョン 6.3以降

- > Contribution workflows (C-Next + XFile3)を使用する場合、外部の場所へのArchiveジョブはステップ2/2で失敗します。  
Contribution workflowsが必要な場合は、6.3修正パッチが利用可能になるまで、6.1バージョンを使用することをお勧めします。
- > XTサーバーのREC名を変更する場合、変更はXFile3のストリーミングインターフェイスで更新されません。  
回避策: XFile3アプリケーションを再起動してください。
- > 一部のXTがLSM-VIA (Hammer Servicesの実行)によって制御され、一部がLSMIによって制御される混合シナリオのセットアップで作業する場合、LSMIによって制御されるXTのローカルプレイリストにLSM-VIAによって制御されるXTからのネットワーククリップも含まれている場合、EDL+Clips Archiveは、LSM-VIAによって制御されるサーバーのネットワーククリップを無視します。
- > プレイリストをXTにアーカイブ(フラット化)する場合、全ての利用可能な宛先/トランスコーディングはXSquareで使用されていると見なされます。  
これは、XSquare設定の“EDL Sub Jobs”がデフォルトで“Auto”に設定されているためです。  
この設定値を変更し、フラット化ジョブで使用する宛先の数を定義すると、それが解決され、回避策として機能します。

### バージョン 6.2以降

- > [AutoArchive] ルールのエクスポート/インポート時に、“Limit to short-in / short-out”ルールオプションが保持されません
- > [MediaManager] テンプレートリストの選択されたテンプレートでユーザーが行った変更は、Disk/XTServerビューを変更した後保持されません。
- > [Streaming] XFile3は、宛先が2つある6 CAMストリーミングが進行中で、ユーザーが2番目のストリーミングタブを開いて一部のカメラをストリーミングすると、例外を表示する場合があります。
- > XFile3がLSM-VIA設定が有効になっている(ハンマーサービスが実行されている)XT-VIAサーバーに接続されている場合、XFile3UIIに表示されるXTクリップのカウンターが正しくない可能性があります

### バージョン 6.1以降

- > Mediagridネットワークドライブは、Windows10で動作するXFile3内で認識されません。
- > 6.0以降、XSQ monitoringは自動的に開始されず、手動で開始する必要があります。
- > Playlist audio swapは、プレイリストのレンダリング時に保持されません。

### バージョン 6.0以降

- > NA

## 制限事項

- > XFile3と同じVLAN内のEVSビデオサーバーは、LinXプロトコルによって自動的に検出され、Servers Discoveryタブに表示されます。  
IPアドレスの範囲外のEVSサーバーを手動で検出することが可能です。  
ただし、XFile3は、同時に最大31台のサーバーに接続して動作することができます。
- > VIAライセンスUIは、XFile3にのみ統合されています。  
XFileLiteは近い将来それを統合されます。
- > XViewer(XFile3に統合)ライセンスは、管理にXSecureを使用し続けます。
- > XFile3のRestore/Autorestoreタブには、'to XT server' が宛先として設定されているXSQ encoderプロファイルのみが表示されます。
- > 速度が300%を超えるプレイリストをフラット化することはできません。
  - > メッセージは、ユーザーのフィードバックを改善するように調整されています。
- > [Monitoring] ポストプロセス時の進捗情報はありません。
- > Auto Archive機能を使用すると、更新されたメタデータを含むファイル名は、アーカイブ中にXMLコンパニオンファイルが作成された場合のみ更新されます。
- > 複数のSDTIネットワーク構成で複数のXFile3を使用する場合、XFile3 GUIのサーバーのリストの順序が異なる場合があります。
- > 全てのサーバーに同じTCが供給されていない場合、XFile3ストリーミングが正しく機能しない可能性があります。
- > 既存のクリップがフォルダにバックアップされ、ユーザーがアーカイブステータス(0)の選択を解除した場合、クリップに再度フラグを付けてアーカイブすると、XFile3はクリップをバックアップしますが、アーカイブされた値は更新されません。
- > XFile3のサーバー検出メカニズムでは、全てのPC LANサーバーポートがXFile3ハードウェア内の同じネットワークカードから見えるようにする必要があります。
- > Restore: ソースファイル名は260文字未満、フォルダ名は248文字未満である必要があります。

## CONTRIBUTION (C-NEXT) WORKFLOW制限事項

- > Contribution Workflowを使用するには、Connected Agentが必要です。  
そのコンフィグは、Connected Agent側で行われます。
- > Contribution設定タブで“restore temporary files”用のフォルダを選択すると、フィールドを削除することはできず、変更するだけです。
- > RestoreまたはAutoRestoreの場合、“Copy type”は強制的に“Continuous”になります。
- > AutoRestoreタブでは、同時に1つの場所(XT)のみを選択できます。
- > AutoRestoreタブの場合、C-Nextに選択した場所に少なくとも1つのフォルダーが存在する必要があります。  
メディアは、ロケーションのルートに直接存在してはなりません。
- > AutoRestoreまたはAutoArchiveの場合、ルールを編集または削除する前に、ルールを停止する必要があります。
- > 離れた場所/ファイルを使用するMediaManagerワークフローは、離れた場所とXFile3ローカルフォルダーの間でのみ可能です(その逆も同様です)。  
回避策: アーカイブ/復元オプションを使用する。
- > MediaManagerタブでは、遠隔ファイルでは使用できないオプションがあります:  
Player、XT、Template、Comparative Files
- > XFile3ブラウズモニタリングは、すべての種類のファイル(メディアファイルだけでなく)を表示します。  
それでも、Restore / AutoRestoreでは複数のファイルタイプはサポートされておらず、media+xmlファイルのみがサポートされています。
- > 離れた場所にあるファイルのストリーミングは利用できません。

- > Integrationは、同時に1～200のジョブで機能します。  
同時に多数のジョブが送信されると、XFile3 / CTSがそれらを適切に管理できず、一部のジョブが失敗する可能性があります。

**特にRestoreとAutoRestoreの場合は、一度に少量のジョブを送信することをお勧めします。**

- > XFile3とConnectedAgentまたはXFile3とXTServerの間の接続が失われたり、実行中/キャンセルされたジョブでアプリケーションを閉じたりするなどの劣化したシナリオは、完全に管理されておらず、これらのジョブで問題が発生する可能性があります。

- > 現時点では許可されていないContributionジョブを実行してXFile3アプリケーションを閉じます。

XFile3/CTSは、アプリケーションを閉じる前にContributionジョブをキャンセルするのに時間がかかります。

- > 一時ファイル/フォルダは、劣化した状況の後でXFile3ディスクに残る場合があります。
- > Aspera & Shared Folderはテスト済みで、正常に動作していますが、制限があります(上記)。  
他のプロバイダーはまだテストされていません。

# 互換性

## ソフトウェア

- > XFile3 6.3 は、以下と互換性があります：
  - > Windows 10 64 bits バージョン 2019 LTSC
  - > Windows 10 64 bits (検証済みバージョン: Windows 10 バージョン 1607 [LSTB または CBB])
- > XFile3 6.3 は、以下と互換性がありません：
  - > Windows 32 bits バージョン
  - > 上記以外のすべてのWindowsバージョン(Windows 7 64 bits、Windows XP、Windows 8、Windows Server 2003、Windows Server 2012、Windows Server 2016、その他)
- > EVS 互換性：
  - > Multicam 16.5 以降
  - > VIA-XSquare 4.5 (XTAccess 4.5含む)
  - > C-Next 1.3
- > これは、64-bit バージョンの XFile3です。
  - > このバージョンは、以前の32ビットバージョンと互換性がありません。  
XFile3の32ビット(4.15.0以前)バージョンと64ビットバージョン(5.0以降)を同時にインストールしないでください。
- > XFile3インストーラーは、新しいバージョンをインストールする前に、最初に以前のバージョンのXFile3と依存関係を削除します。

## ハードウェア

- > XFile3 6.3アプリケーションは、次のXFile3ハードウェアでサポートされています
  - > REF: PMA2-6801S
  - > REF: PMA2-6501S
  - > REF: XF3-2U-4
- > XFile Liteモードで実行する場合、アプリケーションを別のハードウェアにインストールできます。
- > 4台以上のXfile3を使用する場合は、XT/XSサーバーにH3XPボードが必要です。
- > EVS 互換性：
  - > 互換: XT3、XT4K、XT-VIA、XT-GO
  - > 互換: XS、XS3、XS4K、XS-VIA